

名張市立病院



■病院DATA

開設者：名張市長／亀井利克
 病院長：竹内謙二
 所在地：〒518-0481 三重県名張市百合が丘西1-178
 TEL：0595-61-1100（代表）
 FAX：0595-64-7999
 URL：http://www.city.nabari.lg.jp/hp/menu00000300/hpg00000210.htm
 交通：近鉄名張駅下車、三重交通バス百合が丘行「市立病院前」より徒歩2分
 病床数：200床
 医師数：23名（2009年1月1日現在）
 指導医数：20名（同上）
 研修医数：初期3名／後期1名
 1日平均入院患者数：138.9名（2007年度）
 1日平均外来患者数：369.9名（同上）
 診療科目：内科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、眼科、放射線科、麻酔科

■病院の特徴

名張市立病院は、名張市南部の丘陵地の閑静な住宅団地に位置し、眼下には市域の中央に流れる名張川や中心市街地が一望できる。1年中自然の変化を楽しめ、伊賀牛、地酒などの食べものがおいしい土地柄でもある。
 同院は、それまで市域において高度医療、救急医療に対応できる病院がなかったことから、1997年に設置された比較的新しい病院。同院では「市民の皆様が生まれ信頼される病院を目指す」を基本理念としている。
 専門知識と経験が豊富な医師、親切で思いやりのある看護師、確かな技術を持つ医療職員と最先端の医療設備を備えて、地域の中核病院として地域住民に親しまれ、信頼される病院をめざしている。

■後期研修DATA

【プログラムの目的と特徴】
 名張市立病院では、現在、内科、整形外科、脳神経外科、眼科で後期研修医を募集している。それぞれ研修期間は3年間で、教育熱心な指導医による指導のもとで豊富な症例を経験できる。なお、上記診療科以外での後期研修を希望する場合には、当該診療科と相談のうえ、研修体制を整備し、随時プログラムを充実させていくという。

【認定・専門施設認定】

日本外科学会認定医制度研修施設、日本整形外科学会認定医制度研修施設、日本消化器外科学会専門医研修施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本脳神経外科学会認定医訓練施設（A項施設）、日本大腸肛門病学会専門医制度研修施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度関連施設

【処遇】

身分：正規職員
 給与：年額1年次約12,000,000円・2年次約12,800,000円・3年次約13,000,000円
 賞与：あり（年2回、4.5ヵ月分。1年次は2.96ヵ月分）
 諸手当：地域手当、扶養手当、住居手当、通勤手当、宿直手当、医師研究手当、時間外手当などあり
 休日・休暇：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）、有給休暇（初年度15日間、翌年度以降20日間）
 保険：三重県市町村共済保険、三重県市町村共済年金、地方公務員災害補償法の適用あり
 宿舎：医師公舎あり（家賃20,000～30,000円/月）、借家は住居手当あり（最大27,000円）

【後期研修修了後】

引きつづき同院において正規職員として勤務する。そのほかにおいても、本人の希望を重視しながら、よりスキルアップを図れるようバックアップがなされる。



研修医（修了者含む）の皆さん

は、大阪の難波まで近鉄電車（急行）で1時間という大阪のベッドタウンです。
 当院は、1997年に設立されたきれいな病院で、麻酔科はもちろん、他科の医師同士のコミュニケーションもとりにやすく、研修医にとっても働きやすい病院です。
 指導医のもと、手術という大事な治療を安全で痛みのないものにしようと努力し、患者さんに最

高の麻酔を受けていただけるように、また、患者さんに合わせた麻酔を安定して提供できるように研鑽しています。
 救急医療は伊賀地域の3病院（名張市立病院、伊賀市立上野総合市民病院、岡波総合病院）が輪番制で担っており、輪番日には指導医とともに緊急手術の待機をし、リスクの高い患者さんの麻酔等も研修しています。

「Yes, We Can」の精神で研修に飛び込んでください。心からお待ちしています。
 この病院の職員としてともに働き、苦勞を分かち合い、病院に対する愛情を築きましょう。
 地域で医療を学び研修するには、社会に奉仕するという強い意欲とスピリットが必要です。そして、その研修は、必ず先生方の将来の糧となります。研修中は元氣なときもあれば、ときには疲れさせられたり、凹んでしまったりするかもしれませんが、しかし、私たち指導医とともに、「あれはできない、これはできない」と言うのではなく、「Yes, We Can」の精神で研修に飛び込んでください。

私は、名張市立病院で初期研修を終え、引きつづき麻酔科で後期研修をしています。当院は、人口約8万人の三重県名張市の中核病院で、名張市

患者さんに合わせた麻酔を安定して提供できる麻酔医に

後期研修医に聞く
 麻酔科後期研修医（1年目）
 谷内 泰孝氏



名張市立病院で
 いっしょに楽しく研修しよっ!!

病院長から
 病院長
 竹内謙二氏

皆さん、こんにちは！名張市は大阪のベッドタウンとして発展してきました。
 当院は1997年に市民の悲願のもと閑静な住宅街の中に開院しました。築12年になりますが、たいへんきれいでございばりとした200床の病院です。老健施設と看護学校を併設しています。これまで、開院以来、毎日救急受け入れを行ってききましたが、2008年より負担軽減のため隣接する伊賀市と救急輪番制を始めました。ここでは、日常診療で経験しなければならぬ疾患はすべて研修できると信じています。
 もしも縁あって当院に研修に来ていただくのであれば、皆さんはすでに私たちの仲間です。私たちスタッフは単なる個人の集合体でもなければ、いろいろな職種が寄せ集めでもありません。ひとつの病院に、心をひとつにして集った仲間です。この病院の職員としてともに働き、苦勞を分かち

オーダーメイドの麻酔計画で
 患者の側に立った医療を実践

指導医に聞く
 麻酔科部長
 黒淵源之氏

近鉄電車で大坂方面から名張に近づくと、緑の森の頂上に忽然とその姿を現すのが我が名張市立病院です。その様はノイシュバンシュタイン城を彷彿させ、叙情的なワグナーの曲が聞こえてきそうです。
 そんな閑静な環境は、院内にも落ち着いた雰囲気を与え、じっくりと研修に取り組むことができます。研修ではややもすると高度で先進的なものを求めがちですが、基本的なものが大切にすべきです。それを雑用と称して忌み嫌うのは残念です。急がばまわれの精神が、将来きつと実を結ぶはずですよ。

私は、研修医を指導する立場の者として、常に患者の側に立った医療を実践しよう心がけています。術前の患者情報を徹底分析し、オーダーメイドの麻酔計画を立てること。麻酔手技は可能な限り愛護的に行うこと。その姿を見せることで、心ある研修医は、予習なしで研修に臨むことを恥じ、粗野な侵襲的処置を厳に慎まなければならぬことを自ら悟ってくれると思っています。